

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた気運醸成 障害者スポーツの普及啓発



ボッチャ(Boccia)

障害のあるなしに関わらず誰もが参加し、競技を楽しめる機会を提供します。

- 予算額：1,359千円（都補助金1,084千円）
- 内容：1 ボッチャ体験教室の開催
2 ボッチャ指導員養成講座の開催

1 ボッチャ体験教室

- 「ボッチャ」のルールを学びながら、誰でも参加できる教室の開催
- 平成27年10月及び平成28年2月（予定）
- 1回30名程度



2 ボッチャ指導員養成講座

- 「ボッチャ」のルール等を実践を通して学び、地域で普及できるよう指導員を養成
- 平成27年9月～（3回開催予定）
- 1回20名程度

「ボッチャ」は、ヨーロッパで生まれた重度脳性まひ者若しくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピック正式種目となっています。競技は、障害者だけでなく、誰もが楽しめるものです。



ブラインドサッカー

障害への理解を深め、パラリンピックの魅力を伝えるため、小・中学校の授業に「パラリンピック教育」を取り入れます。

- 予算額：2,000千円（都補助金1,000千円）
- 内容：小・中学校でブラインドサッカーの体験授業を実施
- 委託先：日本ブラインドサッカー協会

- 27年度は10校で実施（2学期から）
【今後4年間で区内全ての小・中学校で実施予定】
- ブラインドサッカーの日本代表選手を講師に迎え障害者スポーツの魅力を体感
- 子どもたちのパラリンピックへの興味が高まるよう、競技のルールや魅力などをまとめた補助教材を作成



「ブラインドサッカー」は、フットサル（5人制）のルールを基に考案された、視覚障害者のためのサッカーです。パラリンピックの正式種目で、今年1月には、大久保公園で「ブラインドサッカー関東リーグ」が開催されるなど、区内での認知度も高まっています。